

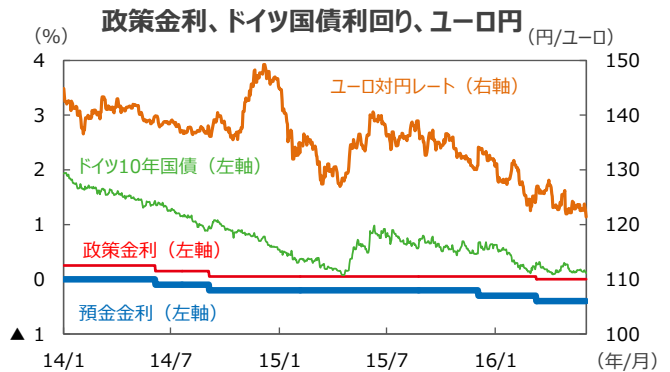
今日のトピック ECBの金融政策（2016年6月）

金融緩和を継続：世界の金融市場の安定に貢献

ポイント1 現状維持を決定

3月の追加緩和効果を見極め

- 欧州中央銀行（ECB）は2日の理事会で、政策金利、預金金利を、それぞれ0.00%、▲0.40%に据え置くことを決定しました。3月に決めた包括的な金融緩和策の効果を見極める姿勢を示しました。3月に決定した、社債の買い取りは6月8日から始め、銀行への資金供給は22日から行います。

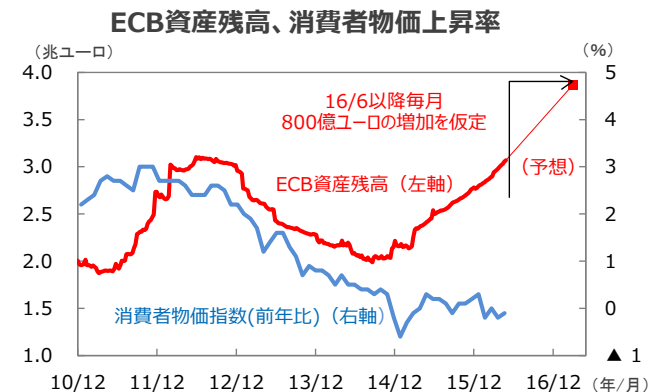


(注) データは2014年1月1日～2016年6月2日。政策金利はMain Refinancing Operations 金利。預金金利はDeposit Facility 金利(翌日物)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 経済見通しを上方修正

総裁は従来通り緩和姿勢

- ECBは2日に公表した経済予測で、2016年の実質GDP成長率、物価上昇率を、それぞれ1.6%、0.2%とし、3月時点よりやや上方修正しました。これは、足元のGDP成長率の上振れや原油価格の上昇を受けたものであり、ECBが先行きに対して強気になっているわけではないと見られます。
- ドラギ総裁は会見で、「英国の国民投票を含めた地政学リスクがある」とし、「物価安定を達成するために、あらゆる手段を講じる用意がある」と、従来通りの姿勢を示しました。



(注) ECB資産残高は、2010年12月31日～2017年3月31日(週次、2016年5月27日以降は、月800億ユーロの資産購入を前提に計算)。消費者物価上昇率は、2010年12月～2016年5月(月次)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 年後半にも追加金融緩和が見込まれる

- ECBは当面、現状の金融政策を維持すると見られます。ただし、5月のユーロ圏の消費者物価は、前年同月比▲0.1%と、ECBの目標である2%を大きく下回っています。物価は今後も低位で推移すると見られるため、ECBは、年後半にも追加の金融緩和を行うと見込まれます。
- 今回のECBの金融政策据え置きは、市場の見通し通りであり、為替、金利、株式の各市場では材料視されませんでした。「英国のEU離脱」リスクはあるものの、欧州の経済安定と超緩和的な金融政策がグローバルな金融市場のサポート役になることが期待されます。

ここもチェック! 2016年5月26日 最近の指標から見る欧州経済（2016年5月）
2016年4月26日 最近の指標から見る欧州経済（2016年4月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。